



# Technical Analysis Report

株式会社ワカバヤシ エフエックス アソシエイツ

TEL: 03-5695-7750 FAX: 03-5695-1150 E-mail: [wfxa@wakafxinfo.com](mailto:wfxa@wakafxinfo.com)

HOME PAGE: <http://www.wakafxinfo.com/>

※お知らせ：年内の「テクニカル分析レポート」の配信は12月21日号（12/20配信）まで、新年は1月4日号（1/3配信）からとさせていただきますので何卒ご了承下さいますようお願い申し上げます。

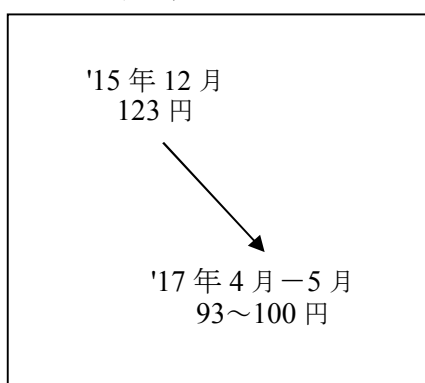
## 若林栄四のテクニカル分析レポート

Vol.624 dated Dec. 21 2015

### 為替相場

以下、枠内図は【中長期イメージ】

■ ドル/円（2015/12/18 ニューヨーク終値 121円16銭）



重要なラインは殆ど下に切れている。

昨年10月15日の安値105円19銭からの上げ18度チャンネルの59週目で先々週は121円80銭に、18度線、カウンター18度線、54度線、カウンター54度線が収斂していた。

それで59週の呪縛が明けて121円80銭を相場が下に抜いてきたということになる。

先週は日銀の緩和補完措置により123円ミドルまであったが、結局この54度線である121円90銭を下に切っている。さらに週足では、大底75円53銭から上げた18度チャンネルの、62週目から上げた54度線が122円にありこれも、これも下に抜けた形になっている。

このラインは重要な局面で上げ相場を支えてきた。たとえば、昨年7月101円台で下値を支え12月の121円台までの急騰を演じた。

また昨年10月15日の安値105円19銭もこのラインにタッチしてエネルギーを補給、120円超えを見せる原動力となったラインである。

それを下に切ってきた。

それから誤差の範囲内であるが、天井6月5日の125円86銭からのメジャーカウンター54度線121円30銭を若干下に切っている。

月足では大底2011年10月の75円53銭からの上げ18度チャンネルの最後の防衛線であるカウンター54度線メジャーが今月は122円50銭と123円の間に位置している。とりあえずその範囲内での動きとなり始めた。

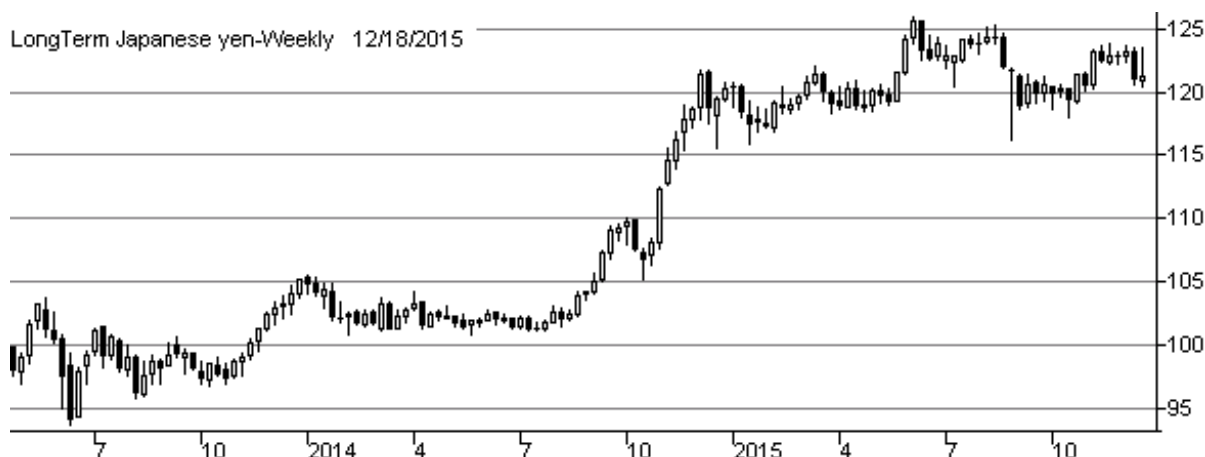
相場下落のスピードはやってみなければわからないが120円を切ると少し加速するかもしれない。

来年8月がニクソンショックからの45年（540ヶ月）となるので、それまでは相場はそれほど下落せず112-116円で推移し、8-9月以降急落となることが考えられる。

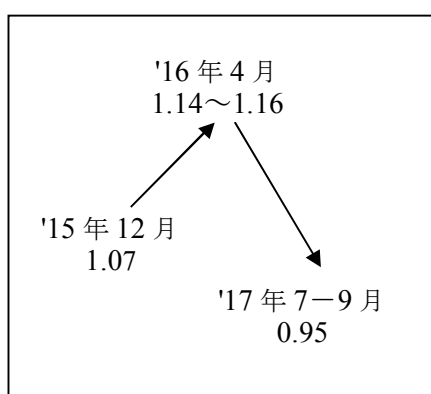
米国リセッションが意識されることになるのではないかと。

目先は125円86銭の高値の6月5日からの27週目から相場が動き出したので、36週目の2月12日に終わる週辺りまでの円高トレンドではないかとみている。

基本戻り売りで対処したい。



■ ユーロ/ドル (2015/12/18 ニューヨーク終値 1.0868)



以下の先週コメント参照。

“この相場を四半期足で見て、1985年2月の安値 0.5633 と 2000年10月の安値 0.8228 を結ぶと今期は 1.07 辺りにそのラインが位置しており、強力なサポートである。12月3日の安値 1.0524 はまさにそれをやりに行つて行き過ぎたということだろう。

四半期足では強力な 1.07 サポートは切れないだろう。週足で見て 3月13日の 1.0462 とダブルボトムの形となっており、下値は堅そうだ。

四半期足で見ると、天井 1.6040 からの下げ 18 度チャネルのマイナー 54 度線が 1.17 辺りに位置しており、最大でもそれをトライに行く流れではないかと思われる。

1.12-1.15 辺りは強力なレジスタンスゾーンであり、それを一旦下に抜けた相場なので、このゾーンを上を抜くのは至難の業だろう。

ただし、米国株暴落の危険がある中で、溜まっているユーロ売りポジションがあぶり出されることがないとは言えず本当のショートカバリングが起これば、1.18-1.20 への上昇もあり得ないわけではない。

日柄で見て、天井 1.6040 からの 27 四半期目の 3-4 月から立ち上げたこの相場が、12 月に戻り安値を記録して上昇に転じた形であるので、おそらく天井からの 31 四半期目である、2016 年第 2 四半期までの戻りではないかとみている。

多分 4 月からは再びユーロ下げの相場が再開するものと思われる。

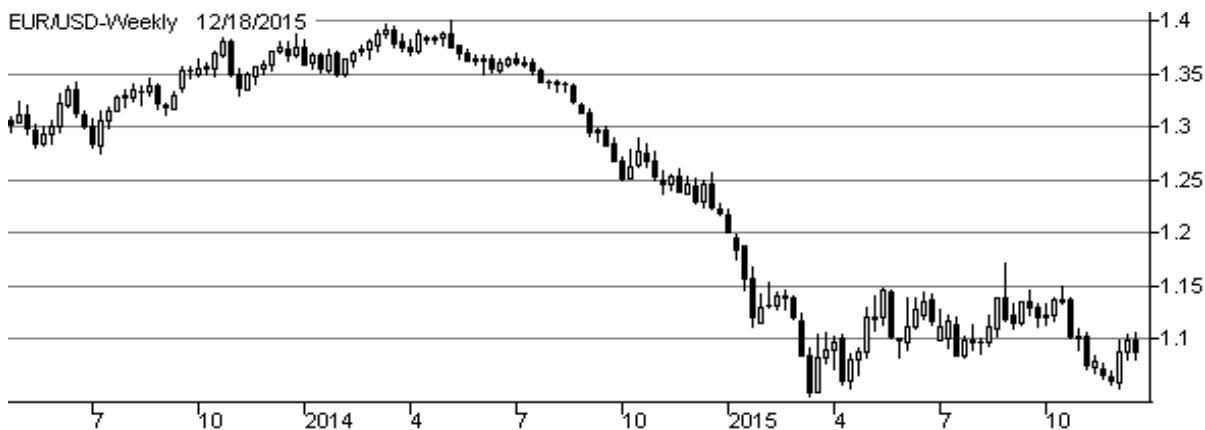
従つてこの相場は基本的には 4 月まで押し目買いが正解だろう。

3月13日の安値 1.0462 から週足ペンタゴンで来年 4 月 1 日に終わる週とプロットすると 1.16 のミドルがそのレベルとなる。あつてもその辺りまでのスローな上昇相場と見る。”

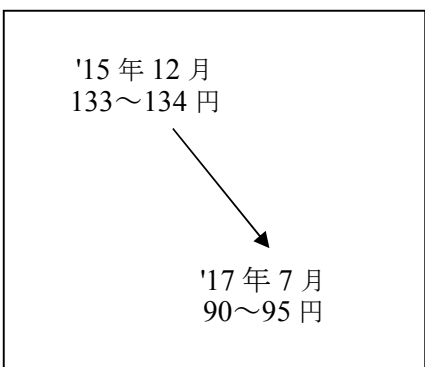
週足でみると昨年 12 月 16 日の戻り高値 1.2570 からの下げ 18 度チャネルの中での動きである。カウンター 54 度線メジャーが 1.0740 にあり強力サポート、カウンター 18 度線が 1.0870 にありサポート、下げ 18 度線が 1.0960 にありレジスタンス、54 度チャネルの上限が 1.1080 にあり強力レジスタンスとなっている。

これらの 18 度線と 54 度線は 7 週間後の 2 月 5 日に終わる週に向けて 1.0920 に集中して交差する構えである。これから想像すると 2 月に入ったところ相場が上に抜けて 1.14 辺りを試しに行く流れに入るのではないかと思われる。

4 月までは基本押し目買い。

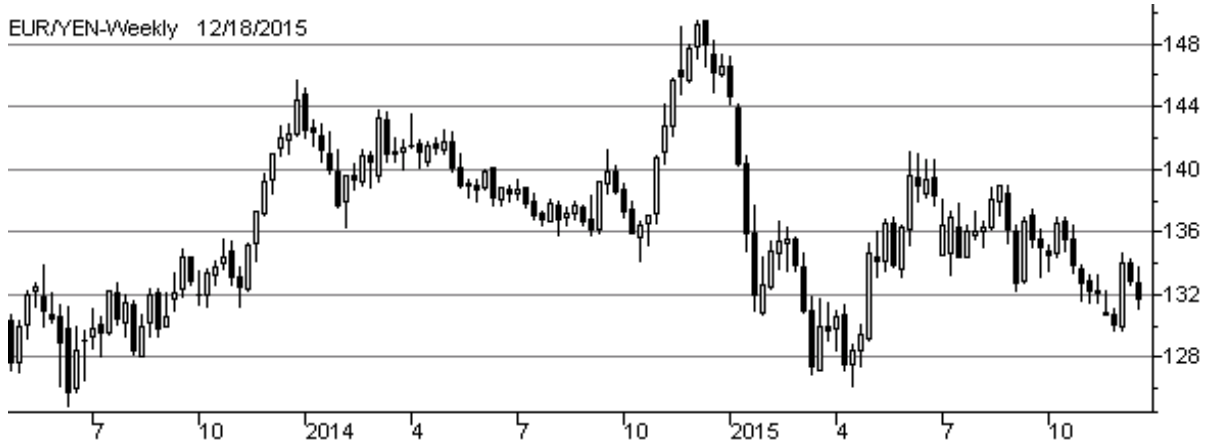


■ ユーロ/円 (2015/12/18 ニューヨーク終値 131 円 67 銭)



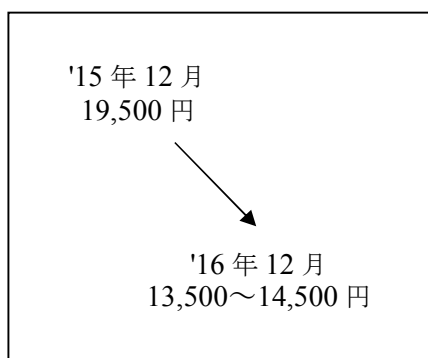
この相場の月足を見ると、昨年 12 月 8 日の高値 149 円 78 銭からの 54 度線が 133 円に位置して頭を抑えにかかっている。その 54 度線が 1 月には 131 円と 132 円の間まで下りてくる。1 月と 2 月の間で天井からの 54 度線、カウンター 54 度線、メジャーカウンター 18 度線がいずれも 130 円と 131 円の間収斂して交差する構えである。早ければ 1 月から遅くとも 2 月からこの相場は 130 円を切って大きく下に下落するもののように見える。12 月は 2007 年 7 月の天井 170 円からの下げ 18 度チャネルのメジャー・カウンター 54 度線が 130 円に位置しており、ここを一気に下に抜くのは難しそうだ。

しかしトレンドは下げなので、買いは慎重に、利食いは早くが原則だろう。売りはトレンドに沿っており、我慢できるので、戻り売りが正解だろう。四半期足では、この相場の底値 2000 年 10 月の 88 円 97 銭から上げた 18 度チャネルの、最強力カウンター 54 度線が 132 円 50 銭に位置しており、これが四半期足レジスタンスである。今週は 4 月 14 日の安値 126 円 09 銭からの 36 週目であり、下に突っ込む場面あれば一旦買いの日柄となりそう。来年 1 月 8 日に終わる週は 6 月 1 日の戻り高値 141 円 06 銭からの 31 週目であり変化中の日柄である。昨年 12 月 8 日の天井 149 円 78 銭からの 59 週目は 1 月最終週でこれも変化の日柄である。大きな変化はこの 1 月最終週からのように見えている。それまでは 130 円 - 134 円の相場ではないかとみている。



## 株式相場

■ 日経 225 (2015/12/18 終値 18,986.80 円)



日銀による金融緩和補完措置により 19,869 円の突飛高を見たが、最終的には 19,000 円割れとなっている。

週足の形としては波高き足で、一つの流れが終わり新しい流れが始まる構えである。

新しい構えとは何か。おそらく 16,901 円の安値からの反騰局面が終わり、本来のベアーマーケットが進行し始めるということだろう。

6月24日の天井 20,952 円からみた週足カウンター54度線メジャーは 19,500 円にあったがこれを完全に下に切っている。もともと 16,901 円へ向かう過程で下に切っていたものが相場

場反騰でいったん上に抜けた形になっていた。それを再びはっきり下に抜き返した形である。月足でも同じ形で、大底 6,994 円からの上げ 54 度線を 9 月引け値で下に切っていたが、10-11 月でそれを上に抜き返した。12 月はその 54 度線が 18,900-19,000 円の間でそれが位置しており、月足がそれを切ると、やはり 10-11 月の上げは騙しで、天井を見た相場が下値を探る形が正しいことになる。その意味で 12 月末足の居所が大事である。

18,900 円以下であればやはり戻り高値を見て下げに入った相場とすることができるだろう。週足でみて 9 月 29 日の安値 16,901 円からの 18 度線が今週は 18,750 円辺りに位置しており、丁度そのポイントでカウンター36 度線と交差している。相場が下に抜けやすい形だが果たしてどうか。

なお年足でみると、38,957 円の天井からの下げ 18 度チャネルの 38.2%ラインが 18,750-19,000 円の間で位置しており、12 月末、19,000 円超えは難しいのではないかとみられる。

四半期足でみると大底 6,994 円からの上げ 18 度チャネルの第 1 ティアーの上限が 18,750 円に位置しており、今年第 1 及び第 2 四半期はこの水準より上にいたが、第 3 四半期は引けが 17,388 円で大幅にこれを下回っている。12 月末は 18,750 円以下となる公算が大きい。

なお 11 月の月足 19,747 円は昨年 4 月 14 日の安値 13,885 円からの 19 ヶ月目であり、またその安値にペンタゴンを合わせ高値 (13,885+5,900) 19,785 円で見事に止まっている。

昨年 4 月の安値が意義のある安値とすれば、丁度 19 ヶ月後に見事な値ごろで高値を見て反落という月足になる。とすれば月足での戻り高値はすでにみた形になる。

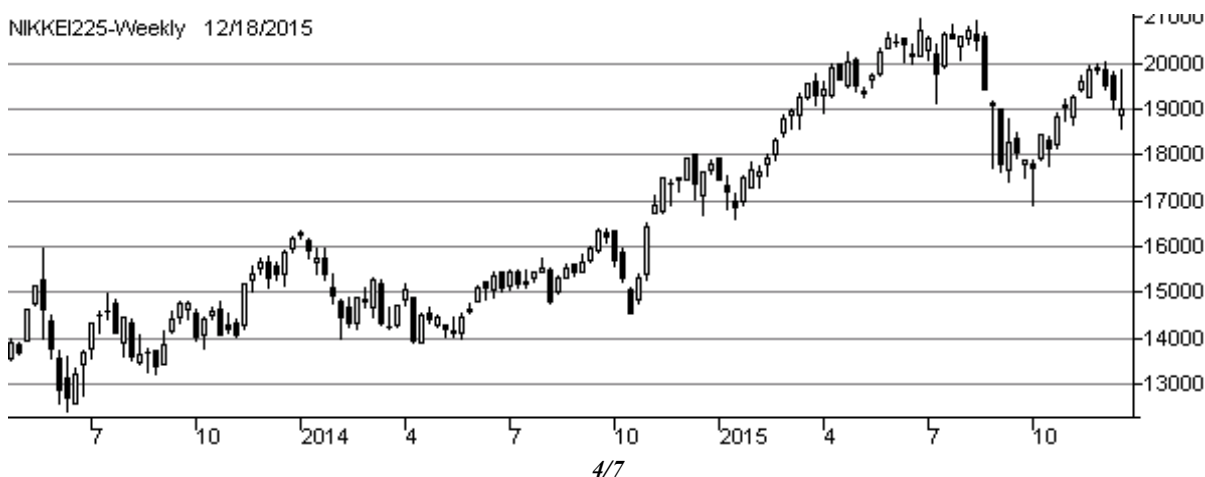
月足、週足ともこの昨年 4 月 14 日の安値 13,885 円が重要なピボットの役割を示していることが見て取れる。そのピボットから次のターゲットを類推していくことになる。

週足では 17,750 円辺りが来年 3 月 11 日に終わる週のターゲットとなりそうだ。

昨年 4 月からの 23 ヶ月目は来年 3 月である。

前記の天井から計った来年 3 月 11 日の大チャネルの下限 17,200 円と合わせてみると、来年 3 月、17,000 円台というのが妥当なターゲットエリアということになりそうだ。

NIKKEI225-WWeekly 12/18/2015

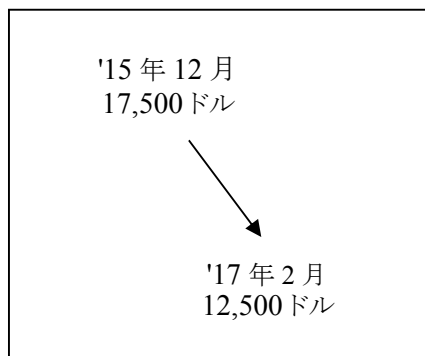


© 2015/WFXA

当社に無断で複製または転送することは、著作権の侵害にあたります。民法の損害賠償責任に問われ、著作権法第 119 条により罰せられますのでご注意ください。

尚、このレポートは情報提供を目的としており、投資の最終判断は投資家自身でなさるようお願い致します。

■ ニューヨークダウ工業平均 30 種 (DJIA) (2015/12/18 終値 17,128.55 ドル)



NYダウの週足を見ると5月19日の天井からの下げ18度チャネルのメジャーカウンター54度線が先週17,250ドルにあった。それを若干下に切っている。

このメジャーカウンター54度線は今回の18,351ドルの天井からの下げ局面で一度も実体で下に切れたことはなかった。まだ120ドルの幅で切っただけなので、誤差の範囲内であるが、今週からの動きが注目される。今週はそのカウンター54度線は17,350ドル辺りに位置している。

一方で17,000ドル付近は昨年2月の安値15,340ドルからみた18度線が位置しており、強いサポートである。

日柄でみるとこの12月は大底2009年3月からの81ヶ月目に当たり、相場を上につ張る力は今月までである。

もうすでに力尽きて下落を開始したのかどうか。

今週は5月19日の天井からの31週目となっており、相場が一旦止まるのか、それとも加速して急落に入るのか難しい。

昨年10月15日の安値15,855ドルからの週足54度チャネルの下限が17,050ドル辺りにあり、これも強いサポートである。

昨年2月安値15,340ドルからの18度線が17,000ドルであり、昨年の二つのメジャー安値からのサポートがいずれも17,000ドル付近に集中している。

“NYダウの11月月足は17,719ドルであった。

大底6,469ドルからの月足54度線8月17,300ドルを下に切って15,370ドルまで下値をトライしたが、その54度線がレジスタンスとなるかどうか試しにきているのがこの月足である。

11月は54度線が17,800ドル付近にあり、11月高値17,977ドルでそれを抜こうとしたが、月末には売り落とされてやはり54度線はレジスタンスとしての効力を発揮した。

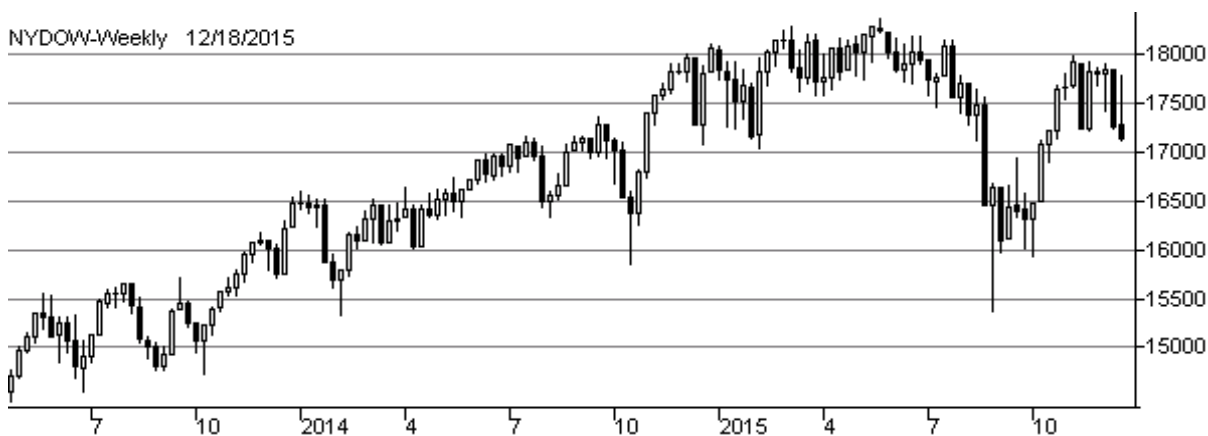
12月はこの54度線は17,850ドル辺りに位置しており、強力レジスタンスである。”

と先週申し上げたがやはりこの54度線のレジスタンスはきつく、相場は高値トライ12月1日には17,895ドルまでやったが、その後は大幅下落となった。これで大底6,469ドルからの54度線が月足レジスタンスであることははっきりしたと思われる。

年足でみると1974年12月の底値570ドルからの2段目の54度線が16,500ドルにあり、これが強い年足サポートである。

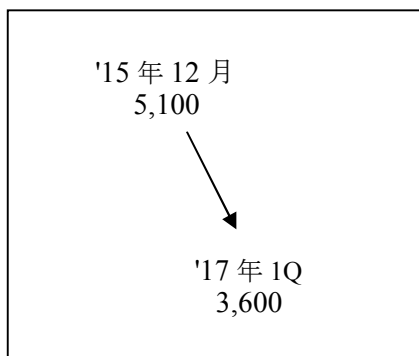
参考までに原油の相場を見ると、昨年6月20日の高値107ドルからの81週目が1月8日に終わる週であり、また年足サポートは34ドル辺りに位置している。原油の相場だけがNYダウを規定するわけではないが、年末年始一旦突っ込んだところは目先の底となる可能性が強い。

NYDOW-Weekly 12/18/2015





## ■ ナスダック総合指数 NASDAQ (2015/12/18 終値 4,923.08)



NASDAQの年足を見ると1984年7月の安値223.9からの上げ18度チャンネルのメジャーカウンター18度線が4,750辺りに位置している。昨年の引けは丁度その辺りに位置している。またその223の安値からの年足54度チャンネルの上限は5,225となっており、7月20日の高値5,231はまさにそれに抵触して反落に転じている。

長いところからみた54度線、あるいは54度チャンネルは天底を意味することが多い。

7月20日の高値5,231は天井であったらう。

今月末の引けすなわち年足が4,750以下であればまずその5,231天井説を補強する形となるらう。

この相場の週足を見ると、7月20日の天井5,231からのカウンター54度線メジャーを初めて下にしっかり切っている。先週そのラインは5,040にありこれは誤差の範囲内ではなくしっかり下に切っている。

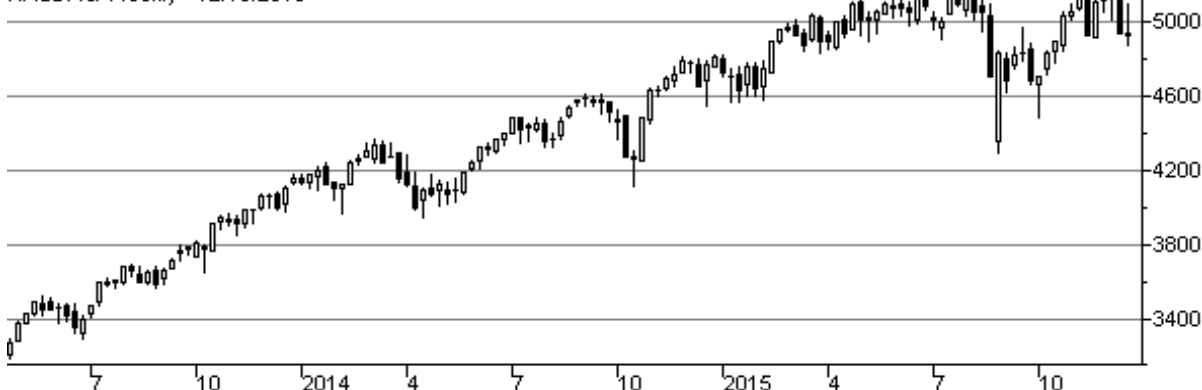
8月24日の安値4,292からの週足54度線が4,770にありサポートである。

2009年3月の安値1,265からの月足サポートレベルは4,600-4,750辺りに位置しており強力である。

しかしながらこの相場はすでに天井を見たものと考えられる。また1,265の安値からの81ヶ月目がこの12月となっており、上昇する力は殆ど残されていない。

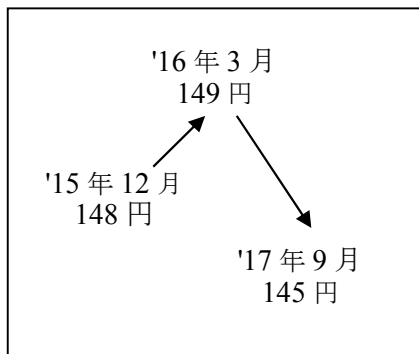
基本は戻り売りが正解だろう。

NASDAQ-Weekly 12/18/2015



## 長期金利

### ■ 日本国債 (JGB) 先物相場 (2015/12/18 終値 149 円 06 銭)



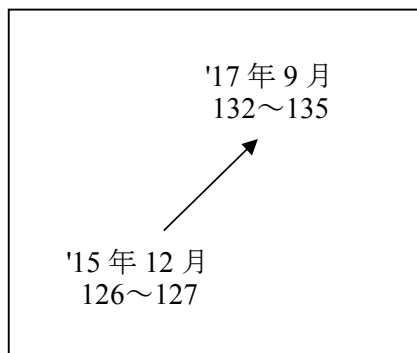
先週殆ど相場の体をなしていないと申し上げた途端に、日銀による緩和補完措置で相場急騰となった。またまた官製相場である。

我が国はあらゆるところで、官製の勢いが強まっている。設備投資、賃上げ、すべてやらせの色彩が濃厚である。もともとその傾向が強かった社会主義体制にますます傾斜している。しかし問題はそれでもうまく行くときはうまく行く。首相が駄目でも、政策が駄目でも国の運気が高まる時、世の中はうまく回るのである。

この相場の上値はどこまであるのか。キャッシュボンド利回り0.275%というのは、どういうことなのか。やはり来年3-4月に到来する1975年9-10月の

10%超えの時代からの40年半の呪縛が解けるまで、相場上昇金利低下の流れが続きそうである。思い切り上をやって150円超えを見て相場急落への流れとなるのだろう。2013年4月のバズーカからの丸3年の来年4月辺りに向けての相場上昇を見る。

■ 米国債券先物相場 (TREASURY NOTE FUTURE) (2015/12/18 終値 127.04)



この相場の月足を見ると2011年2月の安値117.28からきれいに18度チャネルに支えられながらのゆっくりとした上昇相場が続いている。

12月その18度サポートは127に位置している。1月もほぼ同じで127がサポートである。

1月になるとその2011年2月からの59ヶ月となり18度、カウンター18度、54度、カウンター54度とすべてのラインが127に集中する。2月からはその呪縛が外れて、相場が一気に上昇に転じるもののように見える。場合によっては1月交差するタイミングで相場が急騰に転じることも考えられる。

この1-2月は重大な局面になるものとみている。

その間週足は126ハーフから128の間で18度とカウンター18度線の間を持ち合う流れが続くように見える。

いずれにせよ、相場高への大ブレイクの時間が迫りつつある。

週足でみた日柄は1月30日の高値からの50週目である1月15日に終わる週辺りはその相場ブレイクの候補の日柄に見える。あるいは6月26日の安値124.29からの31週目である1月最終週もその候補である。

(了)